
ソウ?ザ?ジャパン

Z O M B R A Y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソウ？ザ？ジャパン

【Nコード】

N8884Z

【作者名】

ZOMBRA Y

【あらすじ】

全米を震撼させた史上類似を見ない連続殺人鬼>ジグソウ<の魔の手な日本にも及ぶ。見知らぬ場所に監禁された高校生たち。なぜ、彼ら選ばれたのか？日本で新たなゲームが始まる

わたし

薄暗い部屋に寝かされている哀れな男を。

奴が寝ている台はコンクリートで出来ている。

男は首枷で拘束している。

「うぐっ……」

男が目を冷まし、起き上がろうとしたが、首枷とせいで起き上がれない。

「だっ誰か！」

男が叫ぶ。

「なぜ……私がこんな目に……」

知りたいか？

なら 教えてやろう。

私は遠隔操作する。

部屋の隅の、男の見える位置に、最新液晶型テレビが発光し、映る。白い肌、落久保んだ黒い眼窩に赤い瞳、頬の渦巻き模様、黒髪の人形。

首がゆっくり動く。

正面を向く。

男が釘付けになる。

『やあ、前田幸一防衛大臣殿』

低い、冷たい、掠れた声。

『今君は怒っているだろう。こんな目にあって。』

だが、君は数週間前に何て言った？』

前田は青ざめた顔をした。

『「犯す前に犯しますよと言いますか？」』

前田は驚愕した。

『お前の一言で大勢の県民の怒りを買った。私からすれば君に反省の気持ちがないな』

「違う！反省している！」

『六十秒でお前は怒りの炎に焼かれる。お前の真上の装置が炎を噴射する』

天井にロケットの噴射機に似た装置があった。前田の全身を焼くのに十分な大きさだ。

『だが、私は殺人鬼ではない。常にチャンスを与える。君の両側に壺があるはずだ』

台の両側に鎖で固定された壺があった。

『その中に首枷の解除に必要な鍵が2つあるはずだ』

前田は希望に満ちた顔をした。

『だが、中には危険な液体が満ちている。素肌で触ればたちまち溶かされる』

前田は首を傾げたかっただろう。

『助かるには、お前の体を侵すことになる。生きるか死ぬか』

選択はお前次第だ』

タイマーが動き出す。

「落ち着け！話し合おう！」

話はした。後はゲームだ。

「うわああああ」

叫ぶ。

ロケットエンジンが噴射をしようとしている。

「あれは口が滑った！ただの例えだ」

絶叫。

叫ぶのは自由だ。時間が減るが。

前田は覚悟を決め、手を壺に突っ込む。

最初は何も感じなかっただろう。

だが、すぐに出した。

手の皮膚が溶けていた。

そうだ、中身は硫酸だ。

「いかれてる！」

正常だ。

前田は再び突っ込む。腕が溶け始めた。叫ぶ。

溶ける。

やがて左手を出す。

鍵だ。

右手も出す。

爪が剥がれた右手にも鍵だ。

「やった」

前田は喜んだ。

だが絶望に変わった。

右手の鍵を落とした。

「ああ…何てことだ！」

もう片方の鍵を首枷に差し込む。

だが2つでないと解除はできない。

「何で私がこんな目に…」

前田は泣き出す。

だが終わった。

時間切れだ。

人形が言う。

『ゲームオーバー』

炎が噴射される。

前田は炎に包まれる。

わたし（後書き）

ども。

日本版ソウを目指した作品です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8884z/>

ソウ?ザ?ジャパン

2011年12月27日23時53分発行